様式１－１

兵庫県・神戸市　空ﾓﾋﾞﾘﾃｨ分野（空飛ぶｸﾙﾏ）における地域産業ｸﾗｽﾀｰ計画（共同作成）

１．地域産業クラスターの形成を目指す産業領域：空飛ぶクルマ関連産業領域

（１）該当する業種　※（　）内は産業中分類ベースで記載

機体開発・製造・整備（輸送用機械器具製造業)、航空運送サービス（航空運送業)、バーティポート建設（建設業）

（２）特定の理由

本県では「空飛ぶクルマ展開ロードマップ」を策定し、以下の取組の推進により県内での社会実装を促進してきており、今後空飛ぶクルマ事業者による具体的なビジネス展開が見込まれている。

①次世代空モビリティひょうご会議

空飛ぶクルマの現状や想定される利用シーンの検討など、将来的な社会実装に向けて取り組むべき方向性等を議論

②尼崎フェニックスバーティポート

尼崎フェニックス事業用地に離着陸場を整備し、事業者の取組等を支援

③機運醸成イベント

空飛ぶクルマの興味・関心を高めるための各種イベント（デモフライト等）を開催

④HYOGO 空飛ぶクルマ研究室

次代を担う若者と共に空飛ぶクルマ社会実装の未来を構想し、研究室で生まれる提案を広く発信することで社会受容性向上を目指す

⑤空飛ぶクルマ実装促進事業

県内でのビジネス展開を目指す事業者の実証や調査等の取組を支援

２．地域産業クラスターの形成を目指す区域

（１）特にクラスター形成の核となる区域

事業化準備

：神戸市、淡路地域（洲本市、南あわじ市、淡路市)、豊岡市

候補地調査

：神戸市、姫路市

（２）計画推進の核となる企業

航空運送サービス

：株式会社 Soracle、一般社団法人 MASC

バーティポート建設

：オリックス株式会社、兼松株式会社

機体開発

：株式会社 SkyDrive

（３）特定の理由

上記区域において、R8 年度よりバーティポート設置や候補地調査、整備拠点の基本設計、運航マニュアル作成等に着手。なお、各地域において核となる企業については、R8 年度空飛ぶクルマ事業化準備事業の公表資料を参照。

３．当該分野の現状認識と目指す姿【目標】

（１）現状の整理

兵庫県では、空飛ぶクルマの社会実装の実現、空飛ぶクルマ産業のエコシステム形成を目指して、空飛ぶクルマのビジネス化を目指す事業者を支援するため空飛ぶクルマ実装促進事業補助金を実施してきた。

2025 年大阪・関西万博では、空飛ぶクルマが万博会場内のポートを拠点に会場周辺を飛行する等、来訪者等が身近に空を自由に移動できる未来社会を体感するとともに、空飛ぶクルマの認知度が大きく向上した。

また、県内では、尼崎臨港地区においてデモフライトを実施するとともに、コックピットの試乗体験会や VR での操縦体験等、空飛ぶクルマの社会受容性向上に資する取組が行われた。

空の移動革命に向けたロードマップにおいても、2027 年～2028 年を目途に空飛ぶクルマの商用運行が一部先行する地域で開始されることが想定されているなど、空飛ぶクルマの社会実装に向け一層官民一丸となった取組が重要となっている。

（２）目指すべき目標（必須 KGI として、計画での官民設備投資額、計画での付加価値増加額及び計画での産業ニーズに即した産業人材育成数を含む。）

① 官民設備投資額
99 億円（2026 年度～2030 年度の累計額）
21 億円（2030 年度の目標額）

② 付加価値増加額
79 億円（2026 年度～2030 年度の累計額）
14 億円（2030 年度の目標額）

③ 産業人材育成数
147 人（2026 年度～2030 年度の累計値）
44 人（2030 年度の目標値）

（３）設定の根拠

① 官民設備投資額
具体化している投資案件より算出

② 付加価値増加額
①に対し、兵庫県産業連関表から経済波及効果を試算

③ 産業人材育成数

具体化している投資案件より算出

（４）効果検証

本プランで掲げた目標について、毎年度フォローアップを実施し、国からの求めに応じて結果を報告する。

４．勝ち筋の特定と投資の具体像、定量的なインパクト【道筋】

（１）基本戦略：当該産業領域における勝ち筋・兵庫県に構築すべき機能

勝ち筋：

① 県内の観光拠点や空港等のアクセス拠点において、ビジネス化に向けたインフラ（バーティポート、充電設備、格納庫等）を早期に整備し、商用運航可能な事業環境を先行的に構築

② 自治体や地域のコミュニティ(観光協会、商工会議所、交通事業者、自治会等)と連携し、住民の意識醸成や、近隣施設等のステークホルダーとの円滑な事前調整を支援するとともに、防災や医療等の社会課題解決に繋げるデュアルユースを検討

③ 機体メーカー及びデベロッパーと県内事業者のマッチング、整備拠点の形成、運航及び整備に必要な人材育成も含めたサプライチェーンを構築し、県内産業の裾野拡大を推進

（２）投資の具体像

① 淡路島内での遊覧飛行開始

：空飛ぶクルマ社会実装初期における運航拠点として有力な淡路島内での遊覧飛行を見据えて、航空管制システムや衛星冗長通信網などの商用運航時に必要な検証を計画推進の核となる企業を中心に実施

② 淡路島内にポートや整備拠点、人材育成拠点を設置

：淡路島内に初期段階の運航拠点及び都市型運航における中核拠点としてポートを数カ所整備、離着陸機能のほか機体の格納庫や MRO 拠点設備を整備

また、空飛ぶクルマの商用運航を見据え運航管理、整備、安全管理等に係る人材育成を実施

③ 神戸市内にポート設置

：神戸ウォーターフロントエリアに都市型運航拠点となるポートを整備

空港での商用運航に必要な各種規程・運用上のマニュアル整備等の取組を、神戸空港をベースに実施

④ 姫路市内にポート設置

：世界遺産姫路城等を有し、観光需要の高い姫路市内にポートを整備

⑤ 但馬空港に整備拠点設置

：北近畿エリアの空飛ぶクルマの商用運航の中核拠点として但馬空港に機体の格納庫や MRO 拠点設備を整備

⑥　城崎温泉周辺にポート設置

：観光需要の高い豊岡市城崎温泉近郊にポートを整備

①～⑥の取組について、戦略産業クラスター計画における支援策や地域産業クラスター計画に基づき県が実施する計画推進の核となる企業への補助等の支援を実施していく。

（３）地域へのインパクト、目指すべき姿

・兵庫県では 2028 年度以降の商用運航の実現を目指す。運航基盤立上げ期（2027 年度～2028 年度）においては、空飛ぶクルマの社会実装に向け、機体の受入・運航の前提となるバーティポートについて、県内で実行される具体的な民間の整備計画を支援。

・先行的な空飛ぶクルマの社会実装がなされ、市場が確立していくフェーズ（2029 年度～2030 年度）においては、バーティポートの整備により蓄積された運航実績を基に、観光地との連携が進み、兵庫県における広域的な移動手段の１つとして空飛ぶクルマが利用できるよう更なるバーティポートの拡充や、複数事業者の運行に対応可能な環境を形成するため、機体整備機能等の整備に取り組む事業者を支援する。また、中長期的な空飛ぶクルマ産業のエコシステム構築のため、県内事業者の空飛ぶクルマ市場参入を促進していく。

５．投資促進に向けた課題と事業環境整備の取組【政策手段】

（１）投資促進に向けた課題

①バーティポート候補地近隣住民及びステークホルダーの空飛ぶクルマに対する理解促進と社会受容性の向上

②商用運航に必要となるインフラ（バーティポート、充電設備、格納庫等）の整備

③既存空港の活用や広域ルート実現に向けた複数自治体との調整

④整備拠点や運航管理・整備要員の育成体制の構築

⑤県内事業者の空飛ぶクルマ市場への参入促進

（２）講じるべき政策パッケージ

①有識者と空飛ぶクルマ事業者、自治体、地域関係団体で構成される次世代空モビリティひょうご会議において、公益性の高い活用策（救急医療・災害対応等）の検討（兵庫県企画部総合政策課）

②商用運航に必要な離着陸場の整備に係る基本設計や環境調査等のバーティポート建設事業者の取組支援（兵庫県産業労働部新産業課）

③県内での商用運航の実現・定着を目指すため、事業化に向けた取組が進められている地域を中心に自治体と事業者を交えた検討会を開催（兵庫県企画部総合政策課）

④商用運航を実現するため、航空法等に基づく申請に際し、航空運送事業開始に向けた規程の整備等、必要と考えられる航空運航サービス事業者の取組支援（兵庫県産業労働部新産業課）

⑤空飛ぶクルマの市場成長性や参入可能性に関するセミナー開催のほか、県内事業者と空飛ぶクルマ関連事業者（機体メーカー、航空運航サービス事業者、バーティポート建設事業者）との個別商談会の開催（兵庫県産業労働部新産業課）

①～④神戸市域における空飛ぶクルマの実用化を見据えた事業者間調整及び周辺環境整備（神戸市港湾局経営企画課）

（３）KGI 及び KPI 未達時の撤退基準の設定

	官民設備投資額（億円）※累計	付加価値増加額（億円）※累計	産業人材育成数 ※累計
2026 年度	0	0	0
2027 年度	3	2	22
2028 年度	28	24	47
2029 年度	78	65	103
2030 年度	99	79	147

撤退基準：2030 年時点で目標未達の場合、計画推進の核となる企業とクラスター形成の展望について協議し、継続の可否を判断